

## <要旨>

日本は「自然災害大国」と称されるように、地震・津波、台風、洪水、火山噴火など様々な災害が発生しており、地球温暖化も相まって更に激化していくと考えられる。近年の災害では、高齢者が犠牲となる割合が高いことが挙げられ、少子高齢化が加速する日本社会においてどのような問題があるのか、またどのような取り組みが求められるかについて考察を行う。特に、高齢者に対する支援や対策、事業等について問題があると感じる一方で、高齢者を含む人々の防災に対する意識の低さについても問題があると感じた。日本社会に生きる誰もが災害について関心を持ち、意識を高めて日々の暮らしを送るべきである。過去から学び、現在そして未来を見据えた防災のあり方、必要性について本研究で提言する。